

12. 乳牛に集団発生した急性住肉胞子虫症

玖珠家畜保健衛生所・大分家畜保健衛生所¹⁾

○佐藤邦雄 松井英徳

広瀬英明 病鑑 山田美那子¹⁾

【はじめに】

2011年5月、管内A市にある大規模酪農家で尾毛の抜け、蹄冠周囲の発赤等の症状を呈し死亡する症例が発生。その後も同様な症状を呈する牛が続発、病性鑑定を実施した結果、*Sarcocystis cruzi* (以下 Sc) による住肉胞子虫症と診断。Sc は『ラットテール症候群』の原因寄生虫と言われており、県内では初めての発生なので報告する。

【発生状況】

2011年1月 北海道より16頭導入

5月 導入牛に口腔内の潰瘍、尾毛の抜け、蹄冠周囲の発赤、流・死産の発生

6月22日1頭が死亡 家保にて病性鑑定(1号牛)を実施

8月1日同居牛のうち1頭が死亡 レンダリング処理

8月2日同居牛のうち1頭が死亡 家保にて病性鑑定(2号牛)を実施

【材料及び方法】

材料：1号牛：H20.11.20生(42ヶ月齢) H23.1.13北海道導入

2号牛：H21.4.6生(30ヶ月齢)自家産

方法：常法に従い血液生化学検査、病理検査(剖検、病理組織学的検査：HE染色標本、免疫組織化学的検査：高分子ポリマー法)を実施。また材料牛2頭の血清を用いネオスポラ間接蛍光抗体検査、飼養牛195頭の血清を用い Sc 抗体検査(ゲル内沈降反応)を行った。

【検査成績】

- 1) 血液生化学検査：2頭に GOT の有意な上昇、2号牛の CPK が正常値の10倍を示した。
- 2) 剖検：2号牛に第3胃破裂による内容物の流出が見られた。
- 3) 病理組織学的検査：心臓、舌、食道、筋肉等に多数の住肉胞子虫の寄生が見られた。
- 4) 免疫組織化学的検査：抗 Sc 家兎血清に心臓内の成熟シストが強～中度陽性であった。
- 5) ネオスポラ間接蛍光抗体検査：2頭共に抗体陰性であった。
- 6) Sc 抗体検査：飼養牛全て Sc 抗体陰性であった。

【考察】

今回、解剖した2頭と同居牛について、臨床症状で特徴的な尾毛の抜け、病理組織学的検査より多数の住肉胞子虫の寄生、また免疫組織化学的検査より抗 Sc 家兎血清への陽性反応の結果を併せて、Sc を原因とする急性住肉胞子虫症と診断した。

Sc の感染は犬科動物(犬、狸、狐等)の糞便に混ざったスポロシストが牛の口より体内に侵入し感染が成立するが、当該農場での牛と犬との接触はほとんど無く、また野生動物の牛舎への侵入は確認できなかった。今回の事例の感染経路は検索中であるが、尾毛の抜けた牛の隔離、また育成牛の導入先を精査するよう指示した。また住肉胞子虫の生活環をふまえ、他の農場へも野生動物の侵入防止を啓発していきたい。